



戦争とくらし 能登島では(2)

食べられるお米の量

2020. 8. 12

たいへいようせんそう はいきゆうせい しょうわ ねん
太平洋戦争がはじまる昭和16年(1941年)*になると、お米は配給制になりました。配給制とは、品物が好きなだけ手にはいるのではなく、きめられた分だけ手に入るようにしたことです。お米だけでなく、生活にいたるものは、ほとんど配給制になりました。戦争で物がすくなくなったためです。*このころ、10歳だった人は、今90歳ぐらいです

大人の男の人は、1日に米2合^{ごう}4勺^{しゃく}(345^{グラム}・コップで約3杯)、子どもは1合^{ごう}4勺^{しゃく}(210^{グラム}・コップで約1杯半)ときめられていました※。能登島は米をたくさん作っていたので好きなだけ食べられたと思うかも知れませんが、それはできないことでした。

戦争が長く続くと、食べ物がどんどん少なくなり、米のかわりに、イモや麦、豆などをかわりにたべました。大根や大根の葉、さつまいものつるなどをまぜた雑炊^{ぞうすい}やおかゆを食べていたということです。いまのように、おかしや飲み物でも好きなだけ、食べたり飲んだりできなかったのですね。(つづく)

※「米穀配給通帳」による

参考にした本

「能登島のれきし」

(平成2年 能登島町役場発行)

くわしいことは(1)に書きました

この通帳は昭和49年10月31日まで有効です

一般用米穀類購入通帳	
昭和44年11月1日付から 昭和45年11月30日まで有効	
No. 18	農 林 省
都道府県	市 区 町 村
住 所	能登市 能登町 66番地
姓 氏 名	
年 月 別	
配 給 量	
基本配給	
希望配給	
希望消費する希望配給	
市 区 町 村 長 印	

お米を買うとき、この紙をもっていきます。いつ、どれだけ買ったか書かれています。(静岡県のものです Web ページより)